全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第46号(平成26年５月号)

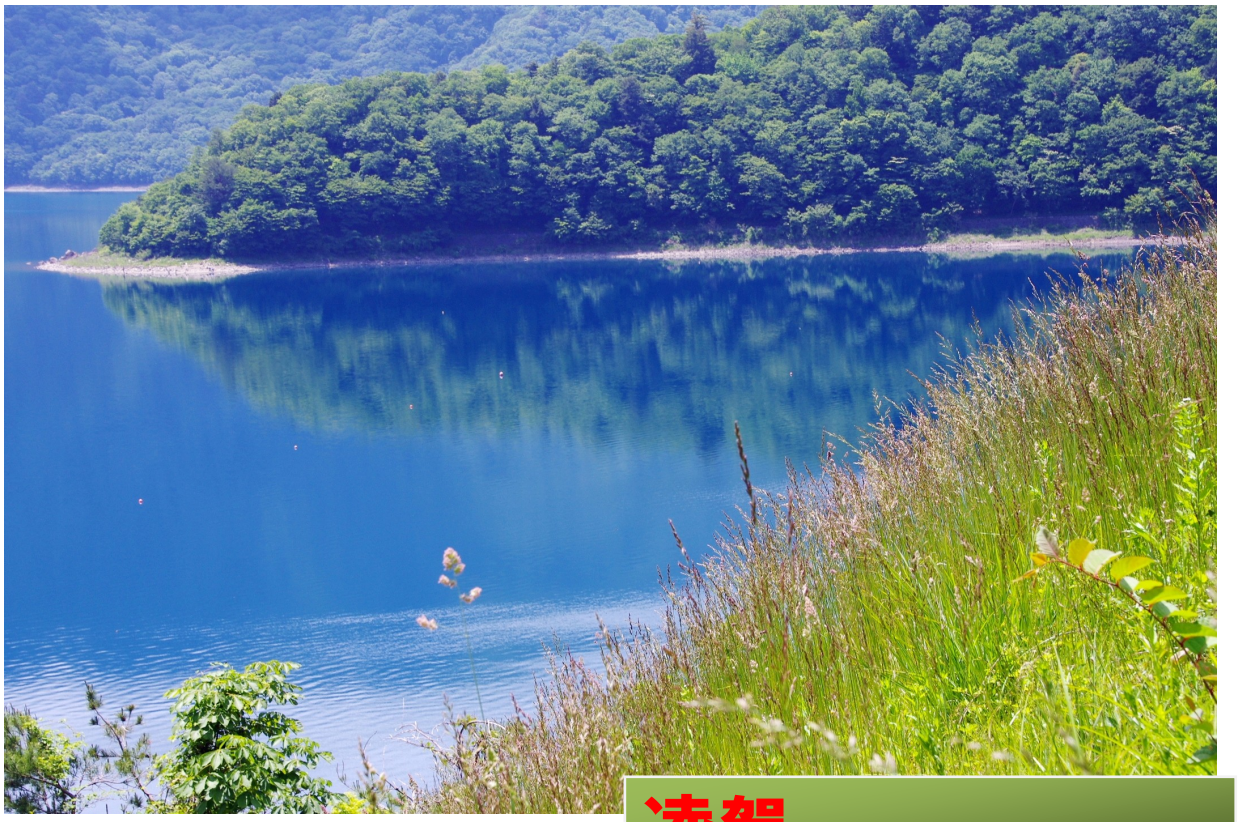

Photo by Joh Tadamichi

凌駕　－他をしのいで上に出ることー

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　仲野十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿55-8-205　ナカジュク内
TEL:03-3963-5572　FAX:03-3963-2529
Mail:center-office@shijyuku.net

理 事 長　湯口　兼司
TEL0875-72-3262
広報部長　大住　明敬
TEL048-957-8608

理事長　コラム

理事長　湯口 兼司（香川県・湯口塾）

４月13日に全国塾長・職員研修大会、『まずは行動する。志を携えて。』がアルカディア市ヶ谷で開催されました。記念講演は国際医療ボランティア『ジャパンハート』代表の吉岡秀人先生でした。先生は10代の時に医者になる決心をして、それも本当に医療を必要としている人たちのために行動する。理念、理想のためにそれからの自分の人生を懸ける。最初に放映された『情熱大陸』の映像を見ただけで凄い人だと感じましたが、実際にお話を伺っていてその人柄、淡々としたお話の中に秘めた強い信念と情熱に心をうたれました。１時間４０分の講演の間にいろいろ自分に当てはめて考えてみました。自分の生徒に対する普段のケアについても改めて反省させられました。まだまだ出来ることがたくさんありますね。そんな自分の行動を省みる機会を与えて頂いた吉岡先生に感謝するとともに、『ジャパンハート』のこれからに注目していきたいと思います。

もう一つ、私塾ネットの仲間が続けてこられた素晴らしいボランティアがあります。それは千葉の谷村和枝先生が2011年8月から今年の3月まで、合計64回の長きにわたり実践された、『石巻出前寺子屋』の学習支援事業です。今年の3月で一旦閉校はいたしましたが、震災の時小学6年生だった子供たちが来年は高校受験の年になるということで、新たに入試指導と形を変えてのスタートをするそうです。私たち私塾ネットはその間唯一の後援団体として認めて頂き、多くの仲間が共にお手伝いをさせて頂きました。引き続き協力、応援させて頂きたいと考えています。和枝先生、志厚先生本当にお疲れ様でした。そしてこれからも宜しくお願いいたします。

さて研修会の前に行われた私塾ネット代表者会において、私は後2年の理事長職を務めさせていただくこととなりました。谷村会長、鈴木副会長、仲野事務局長などセンターの多くの人たちに支えられてのこれまでの二年間でした。これからもみなさんのお力を糧に頑張りますのでよろしくお願いいたします。今回の研修中に他団体の方々から声をかけて頂きました。『私塾ネットさん、良かったですね！十数年前の三団体の連合、結集が今の元気な、そして仲の良い私塾ネットに繋がっているのですね。本当に羨ましいですよ。』この言葉を励みにさらに素晴らしい組織として発展していけるように共に頑張りましょう！

TOPICS　第12回　全国塾長・職員研修大会

報告：大住　敬明（エリア関東代表）

私塾ネット最大の行事である「全国塾長・職員研修大会」が東京の「アルカディア市ヶ谷」で開催されました。昨年は四国の丸亀で地方色豊かな会でした。今年は東京でどんな催しをして、どんなおもてなしがあるのか、研修部長の田中宏道先生（LAPIS鎌ヶ谷）はじめスタッフの方々の活躍を期待して、会場に足を運びました。

役員会などがあるため開始時間の３時間ぐらい前に行きましたが、すでにナカジュク、LAPISなどの若手講師達が、当日の資料の袋づめをしたり、受付でその段取りを打ち合わせている光景に接し、頼もしく思いました。

午後２時開始です。

湯口兼司理事長が「ネットには30年40年と経営してきたベテラン塾、それを受け継いで2代目が育ってきた塾、始めて２年、３年位の塾が混在し、お互いに切磋琢磨しています。そして、地域の教育に貢献しております。これを継続することが大切です」と挨拶されました。塾長の思いを生徒に伝えることがやりがいであると話される理事長に共感の思いとともに、これからもしっかりネットの手綱を引っ張って欲しいと思いました。

ここでサプライズ。東北大震災以降、被災にあった石巻で、漢検・英検の指導をされてきた谷村和枝

日時　2014年4月13日（日）
会場　アルカディア市ヶ谷（私学会館）
プログラム
第一部　研修大会　開場　午後１時30分
大会　午後２時～５時50分
①「今年どうする？」　14：00～15：10
オープニング・ご挨拶・祝辞・エリア近況報告・アイスブレイク
②記念講演　15：30～17：10
講演：吉岡 秀人氏「まずは行動する。志を携えて」
③「再び、今年どうする？」　17：10～17：50

第二部　懇親会　午後６時15分～８時30分
・主催者挨拶・乾杯・祝辞・テーブルスピーチ・エリア報告・謝辞

さん（谷村会長の奥様）に理事長から感謝状、記念品と花束が贈られました。驚きと喜びに満たされた笑顔で挨拶された和枝先生に拍手を送りたいと思います。

湯口理事長お得意のサプライズイベント、石巻出前寺子屋谷村和枝代表に感謝状が贈られる

続いて、来賓挨拶。社団法人全国学習塾協会会長安藤大作先生（三重県安藤塾塾長）から公益社団法人としての1年を振り返り超多忙な一年であった、これからも塾の発展のため共に前進しようと力強い挨拶がありました。

田中先生司会のもと、参加者の親交を深めるという意味のアイスブレークタイムが始まりました。４人一組でチームを作り、一人が数分間自己紹介と最近のグッドニュース話します。そして個人情報に触れない程度で他の人が質問をするという、あのホスピタリテイを具現化している「リッツカールトンホテル」で紹介されているコミュニケーション方法を取り入れた楽しい時間がありました。この手法は自塾で子供たちにも活用できると思いました。

基調講演「まずは行動する。志を携えて」吉岡秀人先生の講演に感動の嵐

愈々、本番です。まず吉岡秀人先生を紹介するＴＶ「ガイヤの夜明け」の映像が上映されました。ミャンマーの地で多くの人たちにボランティアで医療に励まれる姿が映し出されました。それにしても貧困の地の現状に驚かされました。

70年前には30万人の日本人がいたビルマ、そのうち20万人は亡くなったといわれる今のミャンマー。日本がビルマを作ったといわれるぐらい親日家の多いこの地は社会主義で経済も酷い状態でした。32万人に対して医者が一人といわれていたぐらいのこの地に、吉岡先生は1995年初めて訪れたそうです。漫画の「仁」で現代の医者が江戸時代幕末の頃にタイムスリップしたのと同じようなものだったのかな、と思わされました

先生は大学では文系に進まれており、ごく普通の学生さんでした。それが困った人を助けたい、子供に何かできることはと考えるようになり医者を目指そうと方向転換されたようです。救急病院などで研鑽された後、海外へ行ったとき病院の貧弱さに驚き、30歳の時に100万円を持って出かけられ、1年で2000件の手術をされたとのこと。しかもそれはミャンマーだけです。ちなみに鳥取県だけで１年間に行われる手術の数は全部で1000件ぐらいとのこと。（イヤー驚きです。）

先生のお話はここから多岐にわたりましたが、今回の講演は私塾ネット加盟塾の生徒、その保護者にも聞いてもらおうと企画しましたので、これから未来に向かって進もうとする子供たちにもわかるように話して下さったところも多くあり、その部分をピックアップする形でこのレポートを進めます。

講演者　吉岡秀人先生

始めてから先生は、毎日朝10時から真夜中12時まで診療を続けていたそうです。（驚異的ですよね。）多くの人が手術してくれと来たそうです。地元の医者たちは金のない人の難しい手術はできないとして吉岡先生を紹介するようになったそうです。先生も初めはできないと帰していたようですが、人生には勝負の時があるように、手術しようと決めたそうです。また、絶対死ぬとわかっている子供には手術しないのが普通ですが、先生は手術してたとえ命を救うことができなくとも、親子が病気と闘っているときに治療をやめることよりも少しでも楽な時間、楽しい時を持つことで良かったと思えることを持ってもらいたいと考えたそうです。つまり、人生の質を変えてあげることが医療の役目だと思ったそうです。

腸閉そくの子供がいて肛門がなく、ウンチができないとき手術には大変なお金がかかります。普通はお金が払えないとそのまま死を待っているわけです。先生は、その時手術して命が助かることで医者として元が取れたと考えるそうです。

何かを決断する時、自分の理性が働いて「やれ」と言われるとのこと。自分の直感の声に従って動くと良くなったそうです。チームで何かやる時も中心の人がしっかりしていれば物事は進むのです。（まさにそうですね。）

患者が来る。暗い声です。手術後まっすぐに大きな声で歩みだす。声のトーンが違います。声で人は見分けられるのです。（結婚相手も声で選べとアドバイス？）

エイズが広まると一つの町・村は子供だけのようになる。食べていけない、教育を受けられない現状

会場は120名の聴衆で満席、吉岡先生の講演に聞き入る

となる。先生はその現実を国境沿いを歩いて実感したそうです。最初28人の子供たちを集めて施設を造られました。2010年に設立した養育施設「ＤｒｅａｍＴｒａｉｎ」です。もうすぐ300人ぐらいになるそうです。医療だけでなく、養護、教育まで手を広げる先生の思いは「できないと思うと、何も出てこない。やると決めると、その困難を突破する考えが必ず出てくる」と言われる信念があってのことだと推察しました。

そうは言っても資金です。20年前に始めたころは相手もされませんでしたが、今では多くの方の支援を頂けるようになったし、学会にも呼ばれて講演できるようになった。運が良かったと言えるかもいしれないが、失敗は山ほどあります。それを恐れず、時代をしっかり読み、自分の長所を伸ばせるようにして下さい。今日を最高の日にできるように、毎日、発酵と熟成(インプットとアウトプット)の繰り返しです。頑張って下さいと結ばれました。

スライドを見ながら私も医療の現場の大変さがわかりました。また先生の活動に少しでもお手伝いができればと思いました。活動への支援をしたいです。寄付はもちろんですがその他にも色々とお手伝いができそうです。素晴らしい講演でしたありがとうございます。（参加者のアンケートが10.11ページに記載されています。感動の嵐です。）

映像を使って現地の医療現場を紹介

エリア関東メンバー「恋するフォーチューンクッキー」の乱舞でおもてなし

感動の余韻を残したまま、会場を隣の部屋に変えて、第２部の懇親会となりました。

センター事務局の仲野十和田先生（ナカジュク）とジュニアの会のメンバーが司会です。

会長の谷村志厚先生が感動のお話を受けて我々もここから今からやるべきことをやりましょうと挨拶があって会が始まりました。まず、いつものように鈴木学さん作成の「私塾ネットこの1年」と題するスライドが上映されました。他行事と重なった関係で、学校関係者の数はいつもより少なかったですが、吉岡先生のお話に圧倒され感動してお酒もすすみました。

吉岡先生はここでもお話をくださいました。こんど５冊目の本が刊行されるようですが、塾・学校の先生へのお願いとして、愛と勇気を与えて下さいと言われた。愛は母性愛（悩み深い時はいつもこれを求めます）、勇気は父性愛(これが不足するとひきこもりになる)です。子供に安心安全の気持ちを与えることが教育の原点ですよとお言葉を戴きました。（お教えありがとうございます。）

湯口理事長のお膝元のエリア四国からは、大挙9名が参加し団結の強さを見せた。挨拶にたつのは寺嶋謙次エリア代表

また、先生が率いるジャパンハートの広報担当佐藤さんが紹介され、今の現状を話して下さいました。寄付金は現地の子供たちのために使っているので、広報にあまりお金を割けないと言われ、多くの人に皆さんからご紹介下さいと言われたことが印象に残りました。

宴はたけなわ、学校関係、塾団体関係の先生方のご紹介の後、私塾ネット関東の有志の皆さんが、昨年のヒット曲（夏の甲子園高校野球入場式の行進曲にもなった）ＡＫＢ４８の「恋するフォーチュンクッキー」をバックにダンスが披露されました。センターのサッシーこと指原莉乃はいぶき学院の山本かつい先生、上手な人も苦手な人もいましたが、みんなでニコニコ楽しく踊ることの良さがわかりました。

副会長の鈴木先生の締めの挨拶で楽しい会が終わりました。また来年も素晴らしい研修会になることを期待したいと思いました。

でも、この後、地方から来られた方々をおもてなしする屋形バスが出ました。そのレポートは中村先生にお願いします。（9ページ参照）

エリア関東有志による「恋するフォーチュンクッキー・私塾ネットバージョン」のパフォーマンス。センターでみごとなダンスを披露したのは山本かつい先生（いぶき学院）

エリア通信

エリア東北　扇野 昭弘
(青森県・学習塾ＴＲＭ登竜門)

4月９日水曜日10時から１３時で、エリア東北の総会を行いました。
会場は、むつ市・八戸市・青森市の中間である三沢市の一伸進学ゼミ(瀬川代表)です。
一伸進学ゼミは、昨年開校した、若手の多い、元気のある塾です。
参加者は、安藤先生・佐々木先生・関先生・瀬川先生・福士先生・渡部先生・扇野の7名です。
役員改選の年にあたり、関先生より代表は引き続き、渡部先生との推薦があり、全会一致で承認されました。そして、渡部代表より、副代表兼会計に安藤先生、広報に扇野の続投の要請があり、両名とも快く引き受けました。
その後、今年度の活動計画を討議し、8月31日日曜日、講師に福島成蹊中・高校長の本田哲郎先生を迎えて、青森市で全国研修会を開催することを決定しました。
また、研修会の後には、車で１時間ぐらいの新鮮な魚のおいしい西海岸の鰺ヶ沢に移動し、懇親会を行い、1泊、あくる日は一帯の観光を予定しています。
この件に関して、5月15日水曜日に、第1回実行委員会を、野辺地町まかど温泉で開く事とし、詳細を決定の上、5月中には全国の先生方にご案内する事としました。
どうぞ、観光がてら、自然豊かな青森においで下さい。

4月13日日曜日、全国研修会にエリア東北から、渡部先生・安藤先生・扇野の3名が参加しました。
研修会会場は、気持ちの良い挨拶が飛び交い、気持ちの良い講演会が期待できました。
吉岡先生のお話は、全てをあきらめている子供たちへ愛と希望を与えるというものでした。
地球規模の大きなボランティアの話を聞いて、私の小さな子供たちへの愛と与えるべき希望に気付きました。
全国研修会には、ぜひまた参加したいと考えるばかりです。

エリア関東　代表　大住　敬明
(埼玉県・聖学舎)

この4月より長江先生に代わって代表を務めさせていただく大住明敬です。
小さな学びや聖学舎の塾長ですが、こんなにも大きな団体の責任者が務まるかどうか、また、時代は若返らねばなりません、もっと若い先生が適任とも思いましたが、そこにバトンタッチする懸け橋ならば何とかお役に立てるのではと思い、お引き受けしました。
ネット関東は、ネットセンターと思われるぐらい密着したところはありますが、独自に今までも活動してきたと思います。しかし、近年は、参加塾数も多くなり、また1都4県にまたがっておりますので、横のつながりが今少し弱くなっている節もあるように思います。
３団体が合併してできた私塾ネットの良さは、任意団体として何物にも縛られず自由に研修などができるところにあると思います。みんなで集まってこうしよう、ああしようと喧々諤々と話し合いができ、そこから得るもので、皆さんの塾経営がより向上していくことを目指したいですね。
頑張ります。宜しくお願いします。
まず５月18日に部長をお願いしました皆さんとこれからのネット関東の方向性などを話し合いたいと思います。

エリア関東　ファミリーパーティー開催
於　川崎・武蔵小杉リッチモンドホテル
毎年恒例ニューイヤーパーティーが、時期をずらし3月16日に「ファミリーパーティー」として開催されました。場所は、エリア代表長江勝秋(当時)の地元、全国屈指の人口急増地域・武蔵小杉(川崎市)。日頃私どもを支えてくださるご家族への感謝を込めての会ですが、笑いあり涙ありの一日となりました。
仲野十和田先生ご一家の演奏による「何でもリクエストOK」カラオケ。２日前に第２子が誕生された中村庸彦先生へのサプライズプレゼント。谷村志厚先生から石巻出前寺子屋へご協力頂いた先生方へ感謝の映像、及び恒例のウルトラクイズ（遊んでいた子供たちも釘付けに！正解者には私塾ネット紙幣100うどん！）。山本かつい先生による「フォーチュンクッキー」ショー。自然と参加者が踊り出し、４月13日の全国研修会・懇親会のパフォーマンスにつながりました。豪華景品の当たるビンゴ大会、子供たちの歌声もあり、まさに全員参加型。多くの皆様に愉しんで頂けたと思います。
しかし、今回の主役は不肖、父・長江勝秋でした。久しぶりに再会された先生方が喜び懐かしみ、

私塾ネットウルトラクイズで盛上がる会場

←長江さんを真ん中に右より仲野、鈴木、大住、山本さん。

↓「恋するフォーチュンクッキー」を熱演の渡辺さん、この熱演が4/13のパフォーマンスの始まり

父の元へ駆け寄りました。その絆の深さに胸を打たれました。現在は不自由な身体ですが、命ある限りまだ果たすべき使命が残されている…。それを小生(長江広紀)から会の最後に「感謝の手紙」として、父へ読み上げさせて頂きました。さまざまなご配慮を頂き、参加者の皆様には感謝の念でいっぱいです。このような形で父と向き合うのは初めてで、何分この後の記憶がございません。本当に有難うございました。

報告・長江広紀（神奈川県・英数学院

エリア近畿　代表　杉山　信良
（大阪府・栄光塾）

近況報告

４月１３日の全国研修大会には、参加できずに申し訳有りませんでした。しばらく身動きが取れない状態が続き、あっちこっちに不義理をしております。この原稿を書いている手元にふた駅隣の塾の３５周年の報告と、４月２７日（日）の公益社団の大阪でのイベントの参加者名簿が届いていますが、そのいずれにも湯口理事長の名前があり申し訳なく思います。

今日までに、いろいろな事が片付いてきましたが、４月の２０日を過ぎた頃から、深い咳をするようになり、市販の薬で抑えてきました。頻度は減るものの咳は止まず、風邪にしては長いなと思っていましたら、１６キロ減った体重が、咳をしだしてから、さらに朝毎に５００ｇずつ減っていき、最大８２キロあった体重がとうとう６１キロになってしまいました。

良く顔を合わせる塾長からも「痩せたし、顔色も良くないし大丈夫か？」と心配され、近所の方にも「先生、痩せましたね。顔も体もちいちゃくなって」と言われ、やっぱり病気なのかなと自分でも思えてきました。

死んだ親父は、兵隊に行って結核を患い、死ぬまで抗生物質と彼の保有している菌とのイタチごっこで、家に戻っている時は、常に親父の食器類は煮沸しているといった環境で私は育ちました。

結核は、免疫力が下がった時に長い潜伏期間を経て発症する事もあります。自分は結核なのかも知れない。真っ先に浮かんだのは、塾生たちに移してしまったのではないかという心配でした。もしそうなら取り返しがつきません。

私の住んでいる西成区は、区役所の保険課に結核の相談窓口があります。すぐに電話をして、医療機関を紹介してもらいました。

本日、５月２日レントゲンを撮ってもらい「問題ありません」とお墨付きをいただきました。やれやれです。夏休みが明けたら、以前のように動けるかなと考えています。

エリア中国　吉長　あけみ
（広島県・吉長塾）

私が塾を始めたきっかけは37年前です。3歳の娘に英語を教えていたら、娘が外国の方を見ると、すぐ“Where are you going?”と言うようになりました。それを見たご近所の方から自分たちの子供にも英語を教えてほしいと頼まれて、娘が4歳、息子が2歳の時に自宅で塾を始めました。生徒4名から始まりましたが、生徒の保護者の口コミにより、次の週には20名、1か月後50名、1年後には100名に増え現在では200名以上の生徒が通っております。自宅の8部屋を教室として使っています。

塾を開いた当初は英語だけでしたが、生徒から「他の科目も教えてほしい。」という要望が出始めました。そこで算数、数学、国語、理科、社会、化学、物理、生物、古文、と科目を増やし、優秀なスタッフのおかげで、中学・高校受験だけでなく、大学受験、院試験まで指導できるようになりました。

生徒には、知らないことを知った時の喜び、解けなかった問題が解けるようになった喜びを知ってほしいと思っております。勉強が趣味の1つのようになってほしいと願っております。

3年生女子、英検3級・漢字検定7級・数学検定8級を取得

今年医学部に入った生徒は、今勉強が趣味のようになっていて入試が終わるとすぐに、TOEIC800点以上を狙って勉強を楽しんでいます。

今年中学受験や高校受験をした生徒の中にも受験が最終目標ではなく、受験後も意欲を持って勉強に取り組んでいる生徒がいます。とても楽しそうに授業をするので、こちらも楽しく授業ができます。

5年生男子、英検3級・漢字検定3級・数学検定4級を取得

小学生の英語の授業で

は、外国人講師が英会話30分日本人講師がライティングを30分計１時間の授業をしています。文章が読めるようになると、英検５級、４級、３級、準２級を受けさせます。また漢字検定・数学検定では宿題をやってきたらご褒美シールをあげています。一度合格賞状を手にすると色々な検定に興味を持ち、漢字検定・数学検定・英検に意欲を向け受験をしています。

塾にはお母さん方のイングリッシュクラブもあり、月１回集まって外国人講師と英会話を楽しんでいます。毎年暮れには、吉長塾卒業生の同窓会があります。生徒が集まり、成長した子供達を見れ、生徒や保護者と一緒に人生を歩むことが出来ることを嬉しく思います。

エリア四国　代表　寺嶋　謙次
（香川県・学習院セミナー）

約1年ぶりですが、第43号に掲載させていただいた「苦手教科（科目）を克服する方法論」の続きです。

問題の本質は、「苦手教科がある」ことではなく、「やる気がない」ことにあります。

前回、「苦手教科を克服するコツ」についてお話しました。しかし、実は、「苦手教科を克服すること」は、それほど本質的なことではありません（じゃあ、なんで書いたのか、という話ですが、ご要望が多いと考え、書かせていただきました）。

それでは、「苦手教科の克服」より本質的な問題とは何でしょうか。もう、お気づきですよね。そうです。子どもの「やる気」です。もう一度、前回（第43号）の記事をご覧ください。

費やした行数を見比べていただければ、一目瞭然です。そのほとんどを、「やる気のない子ども」について費やしています。つまり、「苦手教科がある」ことが問題なのではなく、「やる気がない」ことが本質的な問題なのです。

特に、「やる気のない子どもに、嫌いなことをさせる」ことの「怖さ」を思い知るべきです。

「苦手教科は克服すべきもの」という固定概念に疑問を持つべき。

ここで、もう一度、原点に立ち返って考えてみましょう。

そもそも、苦手教科は、克服しなければならないものなのでしょうか？

人間は、誰にでも、好き・嫌いがあります。得意・不得意があります。長所・短所があります。これは、理屈ではありません。それが「個性」なのではないでしょうか。

ところが、多くの大人は、「子どもの個性の尊重」と口では言いながら、なぜか、短所ばかり指摘します。嫌いなこと・不得意なことを必要以上に気にします。

「そんなことはない！」という方は、振り返ってみてください。その子どもは、本当に、ほめるべきところより、叱るべきところの方が多い子どもですか？ そうでないにもかかわらず、ほめる回数よりも、叱る回数の方が多くなっていませんか？ それは、ある意味で「いじめ」ではないですか？

どんな子どもも、嫌いになりたくて嫌いになっているわけではないと思うのです。誰だって、得意になりたいと思っているはずです。自分でも、できないことがわかっているのです。にもかかわらず、

「〇〇が、なんでできないの？」
「もっと〇〇をがんばらないと！」

とばかり言われるのです。

これで、やる気が出ると考える方がおかしいと思いませんか？

「苦手教科を放りっぱなしにして良いのか？」という反論に対して

このような考えに対して、**「じゃあ、苦手教科を放りっぱなしにしておいて良いのか？」「公立高校受験には、全教科が必要じゃないのか？」という反論**が、必ず返ってくると思います。

しかし、「どの教科も同じようにできるべき」というのは、幻想であり、妄想なのです。

もちろん、公立高校入試には、全教科が必要です。

しかし、「全教科が必要である」ということと、「全教科が同じようにできるべき」ということは、イコールではありません。

トップ校に合格する子どもも、全教科が同じように好きで、全教科が同じようにできるわけではありません（当たり前ですが）。教科によって凸凹があります。

ポイントは、「やる気」なのです。

したがって、やる気に溢れる子どもには、第43号掲載の方法で苦手教科を克服すれば良いと考えます。

しかし、**あまりやる気のない子どもには、得意教科を作る・増やす・伸ばすことから始めるべきです。**すごく単純に書けば、**「得意教科を作る・伸ばす→ほめる→やる気が出る→得意教科を増やす→もっとほめる→ますますやる気が出る→苦手教科にチャレンジ」**という順序です。

冷静に考えてください。苦手教科は、苦手なのです。嫌いなのです。興味がないのです。やる気がないのです。

したがって、苦手教科はやってもなかなか結果が出ません。時間がかかるわりに、伸びが少ないです。その結果、勉強全体の効率が悪くなります。他の教科まで、得点が下がる可能性があります。それが、苦手教科なのです。

つまり、苦手教科の優先順位は低いのです。後回しでいいのです。

以上から、「苦手教科を放りっぱなしにしておいて良いのか？」という反論に対する回答をまとめます。

放りっぱなしが良いとは決して思いませんが、苦手教科の優先順位は低いはずです。問題は、苦手教科そのものではなくて、子どもの「やる気」です。「やる気」さえ育てれば、苦手教科の問題は、自然に解消されます。

「苦手教科を放りっぱなしにすると、その教科がま

すます苦手になるのでは？」という反論に対して

以上の回答に対して、「苦手教科をそのままにしておけば、ますます苦手になるのではないか？」という反論が、やはり返ってくるでしょうもちろん、その可能性はあります。

しかし、繰り返しますが、ポイントは「苦手教科」ではなく、「やる気」です。したがって、**「苦手教科」がやる気の出ない原因なのかどうか、**そこをよく考えるべきです。

その苦手教科さえ克服できれば勉強全体のやる気が出る、というのであれば、その苦手教科の克服の優先順位は高いでしょう。

しかし、私の経験上、圧倒的に多くの場合、「苦手教科」以外の教科も十分ではない場合が多いです。

具体的に書きます。例えば、「この子、数学が苦手で…」と相談される場合、数学以外が得意かというと、そうではない場合が圧倒的に多いです。全体的に得意教科がなくて、特に数学が不得意、という場合がほとんどです。要は、やる気が育っていないのです。

したがって、**苦手教科を克服したいのであればこそ、苦手教科そのものにではなく、「やる気」に目を向けるべき**なのです。

「やる気」はすべての源（みなもと）です。「やる気」が育てば、実は、そのほとんどの問題が解決します。≪昨年の保護者会より≫

エリア九州　代表　林　芳子
（宮崎県・Hayashi塾）

今年は、何となく慌ただしくて、「２月に入ったな。いよいよ受験だ。」などと思っていたら、もう4月も終わりです。暑かったり寒かったりで気温の変動が激しく、教室でも、日によって、暖房を少し入れたり、除湿にしたりなど、変な感じです。それだけに、体調を崩している子も多い状況です。

今回の受験では、ほとんどの子が工業高校志望でした。県立の工業高校はかなり倍率が高い（1.5倍ぐらい）ので、祈るような気持ちで追い込みをしました。結果は、全員が合格ででました。

ほっとする間もなく迎えた新年度です。消費税率が変わったこともあり、「新年度の募集には期待できないだろうな。あまり動揺せずに、頑張ろう。」などと考えていました。一応、チラシは作り、ポスティングをしてもらいました。本当に期待はせずに。

こちらの中学は2学期制で、5月の下旬に第１回の定期テストがあります。その頃か、それが終わったあとで少し集まればいいかな、と、思っていました。

ところが、ポスティングが終わって少しした頃です。2週間ほどの間、問い合わせや体験入塾の申し込みが、相次ぎました。例年にもないことです。また、この時期の入塾は、中学３年生が多いはずなのですが、今年は、中学１・２年生で、工業、または、国立高専志望の男子が多かったのです。「どうしたのだろう？」と、不思議でさえありました。

やがて、新しく入った子達のお母さん方から聞いて、理由がわかりました。

チラシと同時期に塾だよりを作り、生徒に配ったのですが、その中で、今年は県立高校を受験した生徒が全員合格したことを報告したのです。それと、ポスティングのタイミングが重なり、パートに出ているお母さん達の職場で、お昼休みの時に話題になったそうです。

私の塾のある場所では、あまり大学への進学率は高くありません。高卒で就職するか、専門学校へ行くというケースが大部分です。ですから、いわゆる進学校へ進む子は少なくて、実業系を志望する子が大部分なのですが、なぜか工業が人気があります。その工業へ全員が合格できたということで、話題になったようです。

従来からクチコミが大切なことはわかってはいたのですが、それも、実は、あまり期待していませんでした。今までは、クチコミによる入塾は、ほとんどなかったからです。

「タイミングだな。」と、思いました。「塾だより」→「チラシ」→「会社のお昼休みのお母さん達の話題」と、今回は、良いタイミングで動いたようです。同じ時期に、参観会＆ＰＴＡ総会があったこともよかったようです。

さてさて、集まったのは嬉しいですが、それぞれの科が40人ずつの工業高校に、どうやって押し込むか？

・・・・またまた、今年度、いや、あと2年間ほどの戦いが始まりました。頑張るぞ！

集う人々・2014.4.13

Photo by Manabu Suzuki

屋形バス＝東京ナイトクラブ号発車！

2014年4月13日私塾ネット全国研修大会の二次会は、屋形船ならぬ大型サロンバスに乗り、麗しのバスガイドさんによるご案内で、大都会・東京の夜景を楽しみ、なおかつ車内では、ゆったりとアルコール等のお飲み物をいただきながら、東京オリンピック前の東京を堪能していただくという趣向です。また、帰りにはお泊りのホテル近くで降ろしていくという、ネット関東の総力を挙げた、前代未聞の「おもてなし大作戦」でございます。

第一部の吉岡先生の感動的な御講演、第二部のサプライズいっぱいの楽しい懇親会も終わり、良かったなあという余韻の中、二次会ご参加の皆様は、すでに私学会館2階に横付けしている大型バスに、期待いっぱいで乗り込まれていきました。総勢は、定員40名弱と盛況で、東北・中国・四国エリアの先生方、親しい私学の先生方、ネット関東の活動メンバーという構成でした。

前部は普通の座席、後部はラウンジ風となっており、乗り込むと直ぐに、谷村会長お手製の手炒り落花生入りのおつまみセットとお飲み物が各人に配られました。お酒のほうは、ビール・チューハイ・日本酒など飲み放題です。

さて、定刻少し過ぎて午後8時40分に、バスは出発。初代コロムビア・ローズの「東京のバスガール」の流れる中、バスガイドさんが登場。前列から悲鳴とも歓声ともつかぬ声が広がっていき、皆拍手喝さい。なぜだかは、写真をご覧ください。筆者は、多くを語れません。期待以上の恐ろしいインパクトがあったとだけ、申し上げておきましょう。

バスは、一路芝公園めざし、まずは夜の東京タワーを見ることに。ラウンジ組は、花より団子ならぬ、夜景よりお酒の方が多く、景色を楽しむことが二の次のようでした。

都心環状線から、11号お台場線に。次は、レインボーブリッジです。夜の東京の定番でしょう。観光ポイントの多いお台場で、降りて見る時間がなかったのが、残念でした。車中では、ガイドさんが要所要所で、クイズを出し、勝った者には、うどん券なる湯口理事長の顔の印刷されたミニ紙幣を配りました。後で賞品に換えることが出来ます。じゃんけん勝負で優勝した者には、ご当地土産が渡されます。たとえば銘菓「ひよこ」とか、こち亀両さんの人形焼、月島もんじゃセットなど。地方の方には、喜んでいただけたのではないでしょうか。用意された方、ご苦労様。次は、湾岸から、中央環状線でスカイツリーを見ることに。あまり、はでなライトアップではなかったので、意外に思いました。

全国研修大会ならではのラインアップ、右から長谷川（千葉）、中村（神奈川）、十亀（愛媛）、近藤（徳島）、吉長（広島）と5県を網羅

次は、夜の銀座に向かいました。夜も照明で煌煌と明るい街は、地方の方には興味ある光景のようです。湯口理事長は、銀座に宿をとられたのでここで下車。記念の写真を撮りました。

湯口理事長とは夜の銀座でお別れ、右から十亀、湯口、山中、田中、仲野そして左端はベテランガイドさん

さらに、バスは足をのばし、羽田線から川崎の京浜工業地帯を通りこれまた定番の横浜ベイブリッジに向かいました。ベイブリッジふもとの大黒埠頭のジャンクションで小休止。写真をご覧になれば、みな和気藹々と楽しくやっているのが、お分かりになるでしょう。そこから、湾岸道路から東京に戻りました。途中少し渋滞もあり、品川に到着したのが、11時20分ごろになりました。ここで解散です。

首都圏のライトアップされた、2大鉄塔と2大ブリッジを一夜で巡ることが出来、首都圏に住んでいるものとしても珍しい体験が出来ました。参加していただいた方たちにも十分楽しんでいただけたと思います。特に、ほぼ道中、面白い話を途切れさせず、いろいろなイベントを繰り出し、参加者を楽しませてくれた、麗しのガイドさんに感謝感謝であります。準備も含め、まことにご苦労様でした。

話によれば、その後各人３次会に突入し、明け方近くまで飲み、午前５時ごろホテルに戻られたという猛者の方たちもいたようです。

また機会がありましたら、皆様と楽しく歓談できるイベントでお会いいたしましょう。

文責：中村直人（神奈川県・中村学院）

←笑顔爆発のツアー参加者。中央が筆者の中村直人氏。首都高速大黒埠頭PAにて

→車中で盛りあがる、右から川崎先生（東京女子学園）。次いで中村、松浦、監物の神奈川、千葉、埼玉三虚頭

2014年度　私塾ネット全国研修大会アンケート　集計報告

研修部長　田中　宏道（千葉県・ラピス鎌ヶ谷）

研修担当、田中宏道です。当日はお越しくださった方、また、当日を遠く離れたところからでも、心だけでも応援してくださった多くの方々に御礼申し上げます。小児科医、吉岡秀人先生をお迎えしての研修会、アンケート（抜粋）をご紹介いたします。残念ながら、当日参加できなかった方、会場の臨場感をぜひ味わってみてください。

また、ジャパンハート広報の佐藤様よりご丁寧なお礼のご挨拶を頂きましたので、紹介させていただきます。

私塾ネット　事務局の皆様
平素よりジャパンハートの活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ジャパンハート佐藤でございます。
昨日は【私塾ネット全国塾長・職員研修大会】におきまして、代表の吉岡秀人が講演の機会を戴きまして誠に有難うございました。
仲野様、田中様をはじめ、皆さまの暖かいご声援、力強いお言葉を戴き、吉岡は再び医療活動地へ戻ります。
昨日は温かいお心遣いに恐縮しきりでございました。本当に有難うございました。
私たちジャパンハートは、これからも「医療の届かないところに医療を届ける」を活動理念に、 ミャンマーでの小児心臓病センター建設、アセアン諸国での緊急医療支援など、子どもの笑顔の有る所、活動に邁進する所存でございます。
このご縁を機に、今後とも末長いお付き合いを是非、宜しくお願い致します。
また、今後も学生対象のスタディツアー等のイベントをいくつか計画しておりますので、 ご興味がありましたら、生徒の皆様、ご父兄様等にお伝え戴けると幸いです。
本当に有難うございました。
今後ともジャパンハートを何卒、宜しくお願い申し上げます。
特定非営利活動法人　ジャパンハート 佐藤　抄

＜Ｑ１．各コーナーや講演はいかがでしたか？＞

Ｑ１－１）アイスブレーク「今年どうする？」

・他塾の先生と意見交換することができ、また言葉に出すことで、改めて今年の目標を色々再認識できました。
・「今年どうする？」の中で、ヒントを得ることができました。
・今年こそは認定された塾として、やるべきことをやりたく、現状の見直しから進めていきたいと思います。
・「考える時間」「話す時間」共に丁度よかったです。また違う環境に、でも同じ職種の方々の話も聞けたことは、とても新鮮でした。
・世代が違うと考え方も変わると感じた。
・新しい関係を築くことができ、また人に話すことによって、今年どのように取り組んでいくべきか、あらためて考える機会ができてよかったです。
・普段お会いすることのない先生方とお話しでき、よかったです。第一印象とは違う意外な面も見られまして、その後もアイスブレークがあったおかげで、会話できよかったです。
・保護者会等にも応用できるかとヒントになりました。
・時間は少なかったですが、その分ポイントでお話が聞けたのがとてもよかったです。
・会を盛り上げるのに効果的な手法と感じた。

Ｑ１－２）吉岡秀人先生のご講演

・ミャンマーを中心にご活躍の先生、お話ぶりもお顔の表情もすばらしい。人の命を心から救っておられる方なんだなぁと実感致しました。また、最後の今日の日を最高に過ごす色々なことをどんどんやってみる、新しいことをどんどんやってみる、共感です。アウトプットしてインプットする。発酵と熟成。終わり頃のまとめのお話、大変心に残りました。
・大変感激しました。自分には何ができるのだろうかと考えると、何もできていない自分に気づかされます。子供たちの未来を考える塾にしていけたら良いなと思いました。
・吉岡先生の行動力、持続力にただただ驚きました。また、たくさんの心に残る言葉を聞くことができました。
・あっという間に時間が過ぎていました。インプットだけでなく、生徒たちに自分の言葉でアウトプットしていきたいと思います。ありがとうございました。
・素晴らしいの一言でした。
・久々に講演を聴きました。自分の心の声を傾けて、自分にできることをやっていこうと思います。元気になりました。
・一言一言に重みがあり、引きつけられる話で、あっという間の講演でした。先生もおっしゃっていたように、今後、やはり本を多く読み、世界観を広げていきたいと思っています。
・先生の話の裏にある数多くの失敗、そしてそれをどのようにして乗り越えることができたのかが、本当に不思議に思えた。人間はそこまで強く実行できるのは何故なのか？内容の中で、実行するタイミング（肉体の感度、精神の感度）、アウトプットを意識したイン

プットの話は非常に勉強になりました。
・本当にたくさん気づきがあり、これまで聞いた講演の中で一番よかったです。直感に従って行動する、実践してみようと思います。
・アウトプットの大切さ、ドキッとしました。インプットで気持ちよくなっているだけではダメだなと。
・医療活動を、活動を通して、これからの時代の教育の在り方まで学ぶことができました。ありがとうございます。
・先生のお話を聞いて、今日を大事に生きようと思いました。次の日が良い日が来るように、今日一日を有意義に過ごそうと、目標をもって生きてきてるつもりでしたが、精神も老化すると思うと、ますます一日を大事に行きたいと思います。inputだけではダメだと思いました。outputして、実践しようと思います。
・すばらしかったです。自分の行動に勇気をいただいて、さらに「実行」していこうと思いました。
・感動多し。何歳になっても挑戦するこの大切さを知った。
・日本人としてどう生きるべきか、色々考える機会を与えていただきました。生ぬるい生活を送っている私の頭をなぐられた気持ちになりました。
・研修のタイトル通り、まず動くということを強く感じました。アウトプットを意識したインプットを実践します。
・数々のお言葉が大変心に響きましたが、今日か明日行動するなら、今日行動する方が人生にプラスに働くというところが非常に分かりやすかったと思います。ありがとうございました。
・すごい、感想なんて書けないですね。少しでも自分のできる範囲で協力します。すばらしい話をありがとう!!塾人として自分にできることは？生徒を見て、あきらめないこと!!
・判断力の速さ、自分を信じる強さ、迷いのない「力」を感じ、共鳴しました。
・「何のために働くのか」インスパイアーされました。JAPAN HEARTという団体があることも知ることができて良かったです。
・吉岡先生のお話は、自ら信じることをしなさい、そのために今、することが最も大切だと聞きました。感ずるところがありました。
・outputの教育、いただきました。2030年まで中国の成長、これからはアジアの時代、そのとおりだと思う。
・家に戻り、熟成させます。
・とても心に響く内容でした。特に「医療を受ける前と後の違いが大切。人生を変える事が医療だ」というお言葉には、「そうだったのか！」と、心がすっきりする思いでした。「病、疾病が治癒する」事が医療ではない。そう思うと、今後の自分自身の仕事をする時に「別の何か」をプラスできそうな予感がします。しかも前向きな何かを…。どうもありがとうございました。

＜Ｑ２．本日の研修会はいかがでしたか？＞

Ｑ２－１）本日の大会運営は良かったですか？

ア）とても満足（３０人）
イ）満足（１５人）
ウ）ふつう（０人）
エ）やや不満（０人）
オ）不満（０人）

Ｑ２－２）よかった点はどこですか？

・講演。吉岡先生のお話＝最高でした。
・司会者の方がよかった。うまいね!!コーヒーがあってよかった。
・事務局の方々の気配り、準備が良く、スムーズに研修会が進行されたと思います。
・周りの方とお知り合いになれたこと。特に湯口理事長、私塾会の山田社長の話は勉強になりました。
・アイスブレークは楽しかったし、講演は素晴らしい。
・開始時間、講演時間など非常によかった。
・保護者や生徒も参加できる会は、非常に良いと感じた。
・「今日よりも良い一日はない」と、改めて教えてくださったことです。そうですよね!!どんな赤ちゃん、おとしよりでも、死に向かって生きていっている。一日一日を大切に、ためらわずに生きる事のすばらしさ、大切さを再認識できました。

Ｑ２－３）よくなかった点はどこですか？

・話が難しい気がする。(小中学生にとって…)
・アイスブレイクがもう少し短くてもよかった。
・2回目のアイスブレイクがやりづらかったです。
・座席指定の方が良かった気がします。
・終盤で数人抜け出したこと。偉いのは分かるがそれとこの会の雰囲気を考えないのは違います。
・「内容が難しいかな？」と思い、1人で参加したです。子供も参加させてあげたかったです。残です。きっと、子供ながらに感じ取れる事が多くあったのでは…？と思いました。

Ｑ２－４）ご意見、ご質問

・この場を設けていただき、ありがとうございました。（４人）
・本日は講演だけで失礼しました。
・お忙しい中、準備をされて、どうもお疲れ様でした。本日の研修会の運営に携わって頂いたスタッフの皆様に感謝申し上げます。

東日本震災復興学習支援活動

報告：谷村志厚

石巻出前寺子屋「検定合格講座」閉校にあたって

２０１１年８月１６日を第１回とする石巻出前寺子屋活動は、１４年３月２２日のスクーリングをもって幕を下ろすこととなった。スクーリングは数を重ねて６４回、２年と８ヶ月に及ぶ活動であった。１１年８月１６日から１２年６月９日の第１期は私塾ネットが主催団体となり、会員の浄財を現地の活動資金とした。この間スクーリングは２２回を記録した。１２年６月１７日から１４年３月２２日までの第２期は、私塾ネット後援、日本キリスト教協議会・震災対策室の資金支援で運営した。この間のスクーリングは４２回に及んだ。１，２期を通じて出前寺子屋の運営はＡＩＭ学習セミナー（エリア関東・千葉県）が主管し、代表を谷村和枝が務めた。

出前寺子屋活動では、震災後の家庭教育の復興を支援することを第一の目標においた。その結果左表の通り64回におよぶスクーリング（学習会）には延べ1635名の受講生を迎えた。このうち学生と一般成人との比率はほぼ半々である。還暦を過ぎた高齢者と、小中高生が机を並べて学ぶ風景は、まことにほほえましいものであった。これこそが、家庭教育復興のテーマを具現する一つの形であったと実感している。

一方支援スタッフは無償ボランティア、有償スタッフ（仙台・石巻で採用の指導員）合わせて283名を数えた。このうちＡＩＭ学習セミナーの関係者は延べ119名、私塾ネットおよび千葉学習塾協同組合の学習塾関係者41名を記録している。彼らは一日を費やして石巻に足を運んだ。遠くは広島から若竹塾の佐藤エリア代表が、香川からは湯口理事長が参加をされた。このようにこの支援活動を通して、私塾ネット会員の皆さんが被災地の現状と被災者の心情に触れる機会ができたことは、当活動の副産物として貴重なものであったと思う。

それにしても、受講生の皆さんの旺盛な向学心には大いに力づけられた。ことに初期においては、津波によって奪われた日常の生活と失われた学習機会を、必死に取り戻そうとされる熱意に心が動かされた。被災地に支援に入って逆に勇気づけられた、とはよく耳にする言葉である。これは出前寺子屋に足を踏み入れた者皆が体験した、共有の思いである。

復興半ばの現状ではあるが、被災者の皆さんの心と生活が、一日も早く復興されることを祈って、石巻出前寺子屋の２年と８ヶ月の活動に、いったん幕を下ろしたいと思う。

石巻出前寺子屋参加者の記録(2011.8～2014.3

	月日	回数	漢検	英検	総数	スタッフ		月日	回数	漢検	英検	総数	スタッフ
2011年	8月16日	1	6		6	6		11月10日	33	11	11	22	4
	9月4日	2	7		7	4		11月25日	34	18	12	30	4
	9月18日	3	15		15	3		12月9日	35	17	11	28	5
	10月2日	4	23		23	6		12月23日	36	20	13	33	4
	10月16日	5	22		22	4	2013年	1月13日	37	20	13	33	4
	11月5日	6	18		18	4		1月26日	38	12	9	21	3
	11月20日	7	20		20	9		2月9日	39	15	12	27	4
	12月11日	8	26		26	8		2月24日	40	19	13	32	4
	12月24日	9	27		27	4		3月10日	41	17	11	28	5
2012年	1月8日	10	26		26	5		3月24日	42	14	9	23	4
	1月22日	11	23		23	5		4月7日	43	19	13	32	5
	2月4日	12	24		24	4		4月21日	44	19	13	32	6
	2月19日	13	14	8	22	4		5月12日	45	20	14	34	4
	3月4日	14	15	8	23	4		6月1日	46	22	11	33	4
	3月18日	15	14	7	21	5		6月16日	47	21	11	32	5
	4月1日	16	13	9	22	5		7月7日	48	23	14	37	4
	4月15日	17	16	9	25	5		7月21日	49	19	11	30	4
	4月29日	18	17	5	22	8		8月11日	50	19	12	31	5
	5月13日	19	22	6	28	4		9月1日	51	14	6	20	4
	5月27日	20	19	8	27	7		9月15日	52	16	11	27	4
	6月2日	21	16	0	16	2		10月12日	53	22	11	33	3
	6月9日	22	0	2	2	2		10月27日	54	15	12	27	3
	6月17日	23	12	11	23	4		11月9日	55	17	14	31	4
	7月1日	24	16	12	28	6		11月24日	56	23	15	38	3
	7月22日	25	17	11	28	5		12月8日	57	21	12	33	3
	8月5日	26	14	10	24	5		12月21日	58	12	9	21	3
	8月26日	27	16	11	27	5	2014年	1月12日	59	25	14	39	3
	9月9日	28	18	12	30	5		1月25日	60	19	11	30	3
	9月23日	29	20	9	29	5		2月8日	61	16	10	26	4
	10月7日	30	11	13	24	5		2月22日	62	15	10	25	3
	10月13日	31	0	11	11	2		3月8日	63	19	11	30	4
	10月21日	32	14	10	24	5		3月22日	64	16	8	24	6
								計	1096	539	1635	283	

検定試験の成果

漢字検定　95中受験中69名合格
準１級２名、２級13名、準２級16名、３級14名、４級10名、５級８名、６級４名、７級２名
（小中高生26名、一般43名）
英語検定　32名受験中28名合格
準２級３名、３級11名、４級10名、５級４名　（小中高生23名、一般５名）

出前寺子屋会場　仮設開成団地
ささえあい拠点センター集会所

命燃やして（最新の日誌より）

私塾ネット前広報部長
全国私塾連盟　元事務局長　佐藤　勇治

平成26年（2014）　◎4月19日（土）

北海道立図書館、利用サービス部資料課長丸子裕様から、FAXを受信する。

全日本学習塾連絡会議記念誌編集委員会　編集長　佐藤勇治様

「資料のご寄贈について（依頼）」

日頃、当館の運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、北海道立図書館では、本道における資料のサービスセンターとして、また、道内の図書館としてふさわしい機能を発揮できるよう資料の整備充実に努力しております。

つきましては、貴方において発行された下記資料を是非ご寄贈いただきたく格別なご高配を賜わりますようお願い申し上げます。

なお、ご寄贈いただける資料は本館資料として末永く、十分に活用させていただきます。

記

1、資料名『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』
2、利用目的「資料の保存及び活用のため」
3、希望部数1部

〒069－0834　北海道江別市文京台東町41番地
北海道立図書館利用サービス部資料課長
丸子裕様
Tel:011-386-8521（内線320）Fax:011-386-6906

◎4月20日（日）

100年前の4月20日、朝日新聞紙上で夏目漱石の「こころ」の連載が始まりました。夏目漱石が模索した小説の文体の構築や、考え続けた近代の問題は、現代の日本人にどう響くのだろうか。本日から、朝日新聞の朝刊で「心」の再連載が始まりました。すばらしい企画です。楽しみです。

100年（1世紀）は1つの時代の、ピリオドとしてすべての分野で取り上げられています。わたしたちの学習塾についても、『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』を6年の歳月をかけて出版しました。

そして、学習塾業界以外の研究機関、国公立、私立大学からも問い合わせがあります。ありがたいことです。

◎4月21日（月）

北海道立図書館に『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』（1170頁、上製本、写真900枚収録）を「ヤマト宅急便」にて発送する。

なお、本書は、全国の都道府県の公立図書館、大学図書館、研究機関の付属図書館に約百数十冊を贈呈しました。

◎4月22日（火）

毎年、2月初旬から5月下旬までその年度の『教育ネット要覧』の編集作業を行っている。

今年は≪第14集≫だから、もう14年も同じ作業をしていることになる。

本日「あおき印刷」の水沼知哉氏が午後2時から5時30分まで3時間半『教育ネット要覧』のデータ整理と打合せに来た。これから40日間が勝負である。

振り返って見ると、私の人生の前半生は調布学園の塾経営に没頭し、後半生の約30年間は学習塾の歴史を残すことに全力を尽してきた。今年度の『教育ネット要覧』で55作目の著作になるが、すべて非売品であり、仲間の支援なしには出来ない仕事であった。

これまでの主な著作を列記してみたい。

（1）統一テスト資料集（1985年、286頁）
（2）全塾連30周年記念誌「あゆみ」（1990年、154頁）、同資料編（184頁）
（3）絆－きずな－佐藤家と其の周辺の人々（1996年、436頁）
（4）社団法人　全国学習塾協会十周年記念誌「であい」（1998年、246頁）
（5）全塾連の歴史－私塾教育のあゆみ－全7巻（1996年～2000年、総頁数2470頁）
（6）『私塾・私学・企業　教育ネット要覧』第1集～第14集（2001年～2014年、総頁数約4000頁）
（7）NPO法人　全国教育ボランティアの会資料集　全6冊（2003年～2008年、総頁数約1200頁）
（8）社団法人　全国学習塾協会設立20周年記念誌「絆きずな」（2008年、418頁）
（9）『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』（2005年～2012年、上製本、1170頁・写真900枚収録）

以上の著作発行のために、塾業界の仲間たちから約6000万円の寄付金、協賛金を頂きました。勿論これだけでは不足で、この30年間で私自身の自己資産を1000万円ほど寄付しております。これも人生の前半生で塾経営に専念できたこと、その上、時代環境に恵まれたことと感謝しています。

そして『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』で学習塾の歴史を残せたことは、何よりも有難いことでした。

◎4月23日（水）

私は、これまでに昭和天皇のお声を2度聞いたことがあ

下村文科大臣も佐藤勇治さんの塾界への功績を評価されている

ります。第1回目は昭和20年(1945)8月15日の敗戦の玉音放送です。その時、私は小学校5年生でした。ラジオの前に正座して、疎開先の農家の離れの小屋で家族と聞きました。

第2回目は、昭和39年(1964)10月10日。東京オリンピックの開会式の時です。抽選に応募し、開会式の入場券を手に入れ、代々木の国立競技場の上段の方で、昭和天皇の開会の辞を聞きました。その日、聖火ランナーの坂井君は、白煙をなびかせ、百数十段を力強く昇りつめ、聖火台に点火しました。第18回オリンピック東京大会でのメダル獲得数は、日本はアメリカ、ソ連に次いで、金16、銀5、銅8の合計29個でした。

私は長年お世話になった私塾ネットの役員を平成26年3月に退任いたしました。そして確か前号でマッカーサー元帥の言葉を借りて「老兵は消えゆくのみ」と書いたと思います。

昭和天皇と親しかった、そのマッカーサー元帥の座右の銘が、サミュエル・ウルマンの「青春」であったことを朝日新聞で知りました。その言葉は「年を重ねただけで人は老いない。理想を失った時にはじめて老いがくる」です。

平成32年(2020)、再び東京オリンピックが開催されることになりました。その年、2度目の東京オリンピックの開会式に出席すること、その年まで『学習塾百年の歴史』のあとの塾業界の歴史を『教育ネット要覧』に書き続けることが、現在の私の理想です。そして老いることなく、この仕事を続けられることを切に願うばかりです。

私塾ねっと誌上句会　第十七回

編集部選

静かさや鯉なき池の春の雨　中村直人（神奈川）

新緑の森をうねらせ風渡る

鯉なき池の静かさ…初春の水辺のたたずまいか。しかし今年の広島の鯉は、ひさびさに賑やかのこと…。

陽光と水温む日々山笑う　長江勝秋（神奈川）

車窓からひときわ目立つつつじかな

山笑うは夏の季語、水温む日々の山だから「笑い初む」といったところだろうか。

そこここと植えるを迷い山法師　十亀幸雄（愛媛）

期は来たりツバメ８の字飛行かな

「初ツバメ新居探して低飛行」。今年もツバメが戻って来たが、新学期になっても塾生は一向に戻ってこない。これが業界の現実。

奥飛騨の青葉の海に溺れけり　谷村志厚（千葉）

薄紅の蝶の群れるや花水木

奥飛騨に福地温泉というのがあり、ここに「長座」と称する銘湯旅館がある。万緑の中で「溺死」しそうだった経験がある。もう一度訪ねたい宿だ。

編集部からお願い

次号は7月末発行の夏号です。

投句はお一人3句まで夏の季語でお願いします。

投稿はメールshikot@aim-net.co.jpまたはFAX047-368-2189

閑話休題

編集長　谷村志厚

毎年広報５号は全国塾長・職員研修大会のレポートを中心に編集をしている。今年の大会は４月１３日に東京市ヶ谷のアルカディアを会場に開催された。基調講演は国際医療ボランティア「ジャパンハート」の代表吉岡秀人氏であった。基調講演については10.11ページのアンケートをお目通しいただければ、いかに皆さんを感動させたかが知れる◆ジャパンハートは東日本大震災にあたって、宮城県石巻で「子ども内科クリニック」を開院した。週末に医師と看護師が石巻に入り、医療施設を失った津波被災地の医療活動ボランティアを実施されていた。2011年12月に始まり、14年3月にその役割を終え閉院している。この期間は私塾ネットが関わった石巻出前寺子屋活動とほぼ重なる２年余である。出前手前寺子屋はいわば「素人ボランティア」であるのに対しジャパンハートの医療支援は「プロのボランティア」活動といえよう。とはいえ彼らが「医療」をそして当方は「教育」と役割を分担しての活動を、同じ石巻の地で同時期に運営してきたことを誇りに思う◆例年この時期は生徒の集まり具合に一喜一憂するものだが、今年の募集状況の悪さはいったいどうしたことだろう。自塾だけのことかと思ってはいたが、皆さんの声を集めるといい話は聞こえてこない。その原因に４月からの消費税増税があるとは思えない。アベノミクスの景気浮揚策が一般家庭までおよんでいないという声もあるが、これもまた見当違いのように思える◆下村文科大臣就任以降、公立学校の改革が急ピッチで進行している。少人数習熟度別授業、土曜および放課後補習といった動きも目立ってきた。学校とは一線を画した教育の場作りを目ざし、塾の原点に立ちかえった対策をこうじなければ塾は衰退であろう。変化なしは停滞であり後退であることを肝に銘じたい。

私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田(ナカジュク)

４月１３日（日）１３：００～、私塾ネットの全国研修大会に先駆け、代表者会議が行われました。事業報告・計画、決算・予算案に引き続き、理事長改選も満場一致で湯口理事長の再任が決定いたしました。振り返ってみると、この２年間で塾業界は少しずつ変わってきました。全国学習塾協会が「社団」から「公益社団」へ。団体の「連絡会議」から「合同会議」へ。緩やかですが、それぞれの役割を認識し、まとまってきているような気がします。本音を言えば、まだまだ一緒になれるところはあると思いますが…。

さて、私自身いくつかの団体に属して感じることは、任意団体は学習塾が力を発揮するには最も適した団体だということです。型にハマった教育に疑問を持つ人たちが塾を始めた理由ですから、規制の中で行動は、本来塾人は苦手なはずであって、自由で責任のある立場から子どもたちの幸せを考えることに力を発揮することを、私たちは得意としています。振り返ってみると、私は歴代の理事長の下、事務局をさせていただいていますが、どの方も若い人が育つことに、塾長、職員の隔てなく、むしろ職員を育てることに力を貸していただきました。年に１度の研修大会も「全国塾長・職員研修」と名付けられているも、その表れだと思います。

私塾ネットには、ジュニアの会や入試情報研究会（入情研）など、塾経営者２世の方々や職員で構成されている会もあり、注目を集め、当会の特色にもなりつつあります。

ご存じの通り、湯口理事長は、若手の育成にとても力を注がれています。特に教務に関しては指導者の原点だと言われ、研修なども作られてきました。話はがらっと変わりますが、今話題のＭＯＯＣＳ（インターネットによる、大学授業の配信）は、ネットさえ繋がれば、僻地であってもハーバード大学の授業が受けられ、その授業の修了書を手に入れることもできます。つまり、今まで教育のなかったところから、優秀な人材が育ち、その後日本に就職を求めてくれば、多くの日本人が職を失うでしょう。そうならないためにも、私たちは、それに負けない、優秀な人々を育てる役割があると思います。教務力はもちろん、人間力をお互い育めるような…。
任意団体だからできる学びを、第２期湯口体制の下、気持ちを引き締めて頑張っていきたいと思っておりますので、今年度も宜しくお願い申し上げます。

フォート・ほっとコラム

凌駕　＜他のものをしのいでその上に出ること＞

富士五湖の一つ本栖湖です。ほかの湖より水深が一番深く澄んだ美しい湖です。

少し古くなりましたが、冬季オリンピックではテレビを見る機会も多く、それぞれの競技はもちろんのこと、ほかの分野でもいろいろな技術や技能を持った人が紹介され、見る度に世の中にはすごい人がいるものだと感心させられました。

こうした超一流の人たちに共通していることは、日本一、世界一になるために、その人の周りの環境、特に家族やコーチ、先輩といった人たちのけたはずれた助力があります。もちろん本人には天性の才能があると思いますが、それ以上に桁外れた努力と試練を精神力で耐え、周りの人と共に乗り越え、積み重ねて凌駕してきたことには頭が下がります。
栄光の裏にはこうした人の汗が裏打ちされていることも忘れてはならないことですね。

さあ、現実に返り新学期が始まった今、もう一度置かれている環境でこの一年で何ができるかを考え、諸先輩のアドバイスを手掛かりに職員と共に企業努力し、その地域を凌駕できるよう、身を削って頑張っていきましょう。

凌駕…努力し工夫をして抜き出ること。

（文＆写真:城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校　村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生
東京都渋谷区本町3-2-2　TEL03-3376-2244

江戸川学園取手中学高等学校　竹澤　賢司先生
茨城県取手市西1-37-1　TEL0297-74-8771

十文字中学高等学校　夘木　幸男先生
東京都豊島区北大塚1-10-33　TEL03-3918-0511

東洋高等学校　丸茂　隆　先生
東京都千代田区三崎町1-4-16　TEL03-3291-3824

桜丘中学高等学校　品田　健　先生
東京都北区滝野川1-51-12　TEL03-3910-6161

聖徳大学附属中学高等学校　川並　芳純先生
千葉県松戸市秋山600　TEL047-392-8111

麹町学園女子中高等学校　大野　博人先生
東京都千代田区麹町3-8　TEL03-3263-3014

春日部共栄中学高等学校　宇野　禎弘先生
埼玉県春日部市上大増新田213　TEL048-737-7611

大成高等学校　岡田　政雄先生
東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL0422-43-3196

東京学園高等学校　須藤　勉　先生
東京都目黒区下目黒6-12-25　TEL03-3711-6641

東京立正中学高等学校　藤井　教戒先生
東京都杉並区堀ノ内2-41-15　TEL03-3312-1111

八雲学園中学高等学校　横山　孝治先生
東京都目黒区八雲　2-14-1　TEL03-3717-1196

関東第一高等学校　副田　康孝先生
東京都江戸川区松島2-10-11　TEL03-3653-1541

武蔵野中学高等学校　鏑木　文夫先生
東京都北区西ヶ原4-56-20　TEL03-3910-0151

和洋国府台女子中学高等学校　西山　紀子先生
千葉県市川市国分4-20-1　TEL047-371-1120

新渡戸文化中学高等学校　藤井三恵子先生
東京都中野区本町6-38-1　TEL03-3381-0196

文京学院大学女子中学高等学校　嶋田　栄司先生
東京都文京区本駒込6-18-3　TEL03-3946-5301

東洋大学付属京北学園　杉原　米和先生
東京都北区赤羽台1-7-12　TEL03-5948-9113

大森学園高等学校　矢部　一紀先生
東京都大田区大森西3-2-12　TEL03-3762-7336

東京成徳大学中学高等学校　増澤　文徳先生
東京都北区豊島8-26-9　TEL03-3911-2786

日本工業大学駒場中学高等学校　河村　文夫先生
東京都目黒区駒場1-35-32　TEL03-3467-2130

青稜中学高等学校　笠松　芳幸先生
東京都品川区二葉1-6-6　TEL03-3782-1502

東京女子学園　実吉　幹夫先生
東京都港区芝4-1-30　TEL03-3451-6523

駒込中学高等学校　河合　孝允先生
東京都文京区千駄木5-6-25　TEL03-3828-4141

愛国中学高等学校　高橋　英夫先生
東京都江戸川区西小岩5-7-1　TEL03-3658-4111

安田学園中学高等学校　福谷　隆芳先生
東京都墨田区横綱2-2-25　TEL03-3624-2666

科学技術学園高等学校　船津　和良先生
東京都世田谷区成城1-11-1　TEL03-5494-7711

日本音楽高等学校　伊庭　崇　先生
東京都品川区豊町2-16-12　TEL03-3786-1711

立正中学高等学校　今田　正利先生
東京都品川区大崎4-2-16　TEL03-3492-4416

上野学園中学高等学校　高橋公美子先生
東京都台東区東上野4-24-12　TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校　舘野　宏　先生
東京都千代田区九段南2-1-32　TEL03-3261-9288

村田女子中学高等学校　二渡　道雄先生
東京都文京区本駒込2-29-1　TEL03-5940-4187

自由学園（中等部・高等部）　更科　幸一先生
東京都東久留米市学園町1-8-15　TEL042-422-3111

帝京中学高等学校　大谷　幸男先生
東京都板橋区稲荷台27-1　TEL03-3963-4711

京華学園　今野　巌　先生
東京都文京区白山5-6-6　TEL03-3941-6493

千代田女学園　長尾　和雄先生
東京都千代田区四番町11　TEL03-3263-6551

日出中学高等学校　大江　律夫先生
東京都目黒区目黒1-6-15　TEL03-3492-3388

目黒学院中学高等学校　阿部　幸彦先生
東京都目黒区中目黒1-1-50　TEL03-3711-6556

共栄学園中学高等学校　松宮　博　先生
東京都葛飾区お花茶屋2-6-1　TEL03-3601-7136

東京家政学院中学・高等学校　滝沢　保一先生
東京都千代田区三番町22　TEL03-5245-6534

東京女子学院中学・高等学校　宗内　信二先生
東京都練馬区関町北4-16-11　TEL03-5903-9559

酪農学園大学付属ときわの森三愛高等学校　黒畑勝男先生
北海道江別市文京大緑町５６９　TEL011-386-3111

(株)創開コミュニティー　小林　和光様
千葉県柏市柏2-7-22-202　TEL04-7164-6511

ドラゴンフィールド㈱　山田　博史様
千代田区神田錦町3-23錦町ビル8　TEL03-5282-3174

㈱パワーコンサル　大島　義則様
渋谷区渋谷1-7-7 青山通りビル12Ｆ　TEL03-5928-1686

㈱私塾界　山田未知之様
豊島区東池袋1-39-1三善ビル　TEL03-3987-0838

㈱ＳＲＪ　板橋　玲　様
港区芝公園2-4-1柴パークB館102　TEL03-5425-6534

デザインオフィススズキ　鈴木　学　様
千葉県柏市柏687-6　TEL04-7164-8276

(株)ぱど　田中　和博様
品川区大崎2-13-17 目黒東急ビル　TEL03-5155-8122

(株)エドベック　千葉　貴広様
横浜市中区山下町25-15 ﾌｭｰﾁｬｰ山下　TEL045-226-5494

(株)ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾅﾙﾈｯﾄﾜｰｸ　斉藤　高志様
千代田区富士見町2-11-11 峰ﾋﾞﾙ3F　TEL03-5275-2101

(株)ｱﾘｽ・ｲﾝｽﾃｨﾃｭｰﾄ　中嶋三十浬様
埼玉県富士見市関沢2-14-8 ｻﾝｾﾞｰﾑ101　TEL049-293-8056